



2024年11月14日

各 位

会社名 株式会社グラッドキューブ
代表者名 代表取締役 CEO 金島 弘樹
(コード番号：9561 東証グロース)
問い合わせ先 専務取締役 CIRO 財部 友希
ir@glad-cube.com

2024年12月期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向等を踏まえ、2024年2月14日に公表した2024年12月期（2024年1月1日～2024年12月31日）の業績予想を修正いたしましたので、お知らせいたします。

1. 当期の業績予想数値の修正（2024年1月1日～2024年12月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 1,847	百万円 △203	百万円 △214	百万円 △235	円銭 △2.88
今回修正予想（B）	1,525	△270	△280	△235	△2.88
増減額（B－A）	△322	△67	△66	0	－
増減率（％）	△17.4	－	－	－	－
（参考）前期実績 （2023年12月期）	1,523	142	143	59	7.29

2. 修正の理由

テクノロジー事業部の受託開発事業において想定通りに受注できなかったことおよび、事業推進や業務効率化のためのコストが想定以上に増大したことが主の要因となり、2024年12月期におけるテクノロジー事業部の売上計画比は54.1%減となりました。

具体的には、昨年買収したworkhouse株式会社の事業において一部の不採算事業からの撤退をしたことや2024年5月15日に公表した、メディカル&デンタルDXを実現するアプリ「ハオシル」事業の買収を取りやめたこと、そして下期に予定していた大手開発案件の一部を中止したことや翌期以降に延期される見込みとなったことが主の要因となります。

なお、当初今期中の収益を見込んでいた大手開発案件のうち、翌期に延期となったものについては、来期の収益に組み込まれることとなります。

一方、当社売上高の8割以上を占める主力事業であるマーケティングDX事業は、引き続き成長力を維持し、前四半期比4.9%増、計画比7.7%増という実績を達成しております。また、営業利益率も55.2%と、高い収益性を確保しており、事業の安定的な成長を裏付けております。

また、スポーツメディアの運営をしております SPAIA 事業については、SPAIA 全体の会員数も 13 万人に到達するなど順調に推移したことにより、売上計画比 17.5%増となりました。

このようにマーケティング DX 事業や SPAIA 事業については堅調であったものの、受託開発事業の不振が大きく影響したことにより、2024 年 12 月期の売上高、営業利益および経常利益は前回発表の予想を下回る見込みとなりました。

今後も引き続き、収益基盤の強化に向け、大胆な事業ポートフォリオの最適化を進めてまいります。事業の不採算性が認められた場合については、迅速な意思決定により撤退を断行し、リスクを最小限に抑え、成長性と収益性の高い事業への資源集中を図ることで、企業体質を強化してまいります。また、引き続き既存事業の成長を加速させ、更なる企業価値向上に向けた革新的な取り組みを通じて、新たなビジネスモデルを創出していく考えであります。

テクノロジー事業部の受託開発事業においては、当社が持つ、デジタル・VR 技術に加え、生成 AI 技術により、DX 推進やデジタル化に課題をお持ちの企業の DX 化などに役立っており、多くの企業からご興味をお持ちいただいております。現在は、大手企業などとの共同開発にむけて協議を進めているなど、この受託開発領域の市場ニーズは非常に高いものと考えております。経営資源の一部を本領域に関する事業へシフトさせ、収益の拡大を図ってまいります。

今期は、新規・既存サービスの拡充、業務効率化のためのシステム投資・開発、広告宣伝費の増額、人材育成、M&A など、将来の成長に向けた積極的な投資を推進しております。これらの投資により、赤字の計画を想定しておりますが、来期以降は V 字回復に向けて全力を尽くすとともに、持続的な成長を目指してまいります。

(業績等の予想に関する注意事項)

上記の通期業績予想につきましては、現時点で当社が入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によりこれら予想数値とは異なる場合があります。

以 上